

エンジニアのCX（キャリア・トランスフォーメーション）

“日本のエンジニア”はどこへ行く？



日本のエンジニア

「広げる」経験

キャリア・オーナーシップ

エンジニア資産

CX資産

転機からの学習

プロジェクトリーダー

豊田 義博

特任研究員



概要

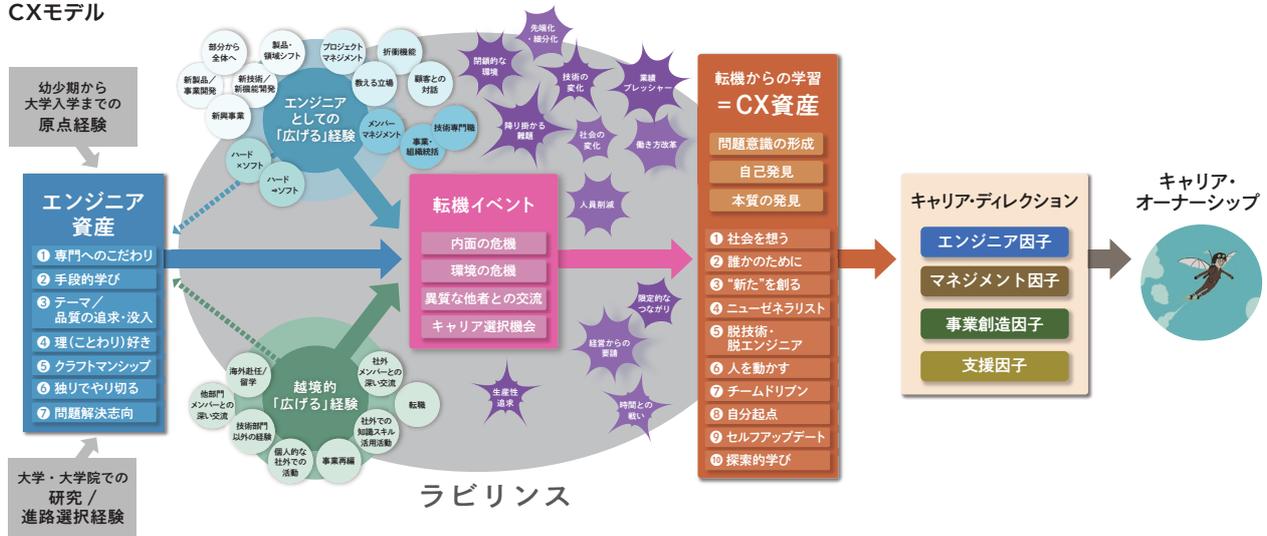
リクルートワークス研究所では、日本を代表する大手メーカー4社の協力を得て、エンジニア40名へのインタビュー、エンジニア1000人への調査をもとに、“日本のエンジニア”が生き生きとCX（キャリア・トランスフォーメーション）していくプロセスをモデル化し、Engineer's Career Journeyと名付けた。そして、そのCXモデルを社会に広く展開していくための3つの提言を掲げた。本報告書はそのエッセンスを取りまとめたものである。

問題意識

“日本のエンジニア”はどこへ行くのだろうか。AIが世の中を変えようとし、DXが各方面へと広がり、リスキングが潮流となる中で、我が国の「ものづくり」を支えてきた“日本のエンジニア”の未来には、どのようなCX（キャリア・トランスフォーメーション）が待ち受けているのだろうか。テクノロジーの変化とともに、ものづくり系のハードウェアエンジニアの人材ニーズが減っていくような声を聞くが、モノのない世

界はあり得ない。彼ら彼女らの経験価値は、未来社会を創り上げていく上で重要であり続けることは間違いない。現に、エンジニアの総数は、ソフトウェアエンジニアもハードウェアエンジニアも増え続けている。では、一人ひとりのエンジニアは、未来にどう向き合えばいいのか。大手メーカー4社のエンジニア40名へのインタビュー、エンジニア1000人への調査から未来の姿を探った。

結論

Engineer's Career Journey
CXモデル

CXモデル(Engineer's Career Journey)。それは、エンジニアが、自らの才能との出会いを通して、キャリア・オーナーシップを確立していくCXストーリーである。日々難題が降りかかり、出口の見えないラビリンスに身を置きながらも、豊かなエンジニア資産を持ち、「広げる」経験を繰り返し、成果をあげている“日本のエンジニア”。しかし、未来に向けての展望はなかなか見えない。そんな“日本のエンジニア”に、ある時「転機イベント」が訪れる。そして、「転機からの学習」=CX資産を獲得することによって、自らの才能に気が付き始める。「持ち味であるエンジニア資産」と「ならではのCX資産」が化学反応を起こし、その人ならではのキャリア・ディレクションが生まれ、キャリア・オーナーシップが育まれていく。

“日本のエンジニア”は、こうしたストーリーの中を

生きている。誰しもが、その人の持ち味である「Myエンジニア資産」、その人ならではの「MyCX資産」を持っている。しかし、エンジニアの多くは、それを自覚していない。だから、自身のキャリア・ディレクションをイメージできない。であれば、それらを自覚する機会を創造することが、“日本のエンジニア”一人ひとりのキャリア・オーナーシップ確立、主体的なCX実現につながるに違いない。そこで、“日本のエンジニア”が生き生きとCXするための3つの提言を行った。

■提言①

「広げる」経験の機会を増やそう。生み出そう。

■提言②

資産の棚卸しの機会と道具を社会をあげて創ろう。

■提言③

たくさんの「ロールモデル」を発掘しよう。公開しよう。

派生アウトプットの紹介

同研究を起点として、3つの提言を社会実装していく一般社団法人エン・ジュニアが発足。「未来を駆動する天才＝エンジニアの人生がイキイキ輝く世界へ。エンジニア発のイノベーションが日本と世界を驚かせる未来へ」というビジョンを掲げ、活動をスタートしている。

Works Reportはこちら

エンジニアのCX

https://www.works-i.com/research/report/engineer_cx2023.html

